

Book Review



力の本

内山 茂 著

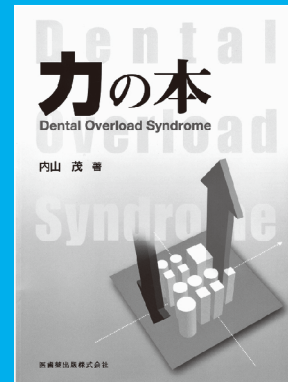


Reviewer

内藤正裕 Masahiro Naito

(くれなゐ塾主宰, 東京都・内藤デンタルオフィス)

A4 判変型, 80 頁
定価 4,830 円
(本体 4,600 円+税 5%)
医歯薬出版刊



おそらく臨床に携わる全ての人々は、自分たちの仕事が患者さんにとって有益であることを願っている。そしてそれはほとんどの場合は当たっている。忍耐強いリサーチャーの努力に耳を傾け、卓越した臨床家の症例から多くのことを学び、長い時間をかけて予後を観察する。その結果から共通項を学ぶ習慣を身につけているからにちがいない。

ところが、成功の理由らしきものは発見しやすいが、自分自身以外の失敗の本当の原因にはなかなか気がつかない。マーフィーの法則に「失敗しそうなのは失敗する」という言葉がある。それでも楽観的すぎるとして「失敗しそうにないことも失敗する」という表現すらあるようだ。

プラークによる歯周組織の炎症が我々の大敵であるのは誰でも理解しているだろう。ところが日常臨床には、それだけでは分類のできない敵がどこかに潜んでいる。その敵はよほど眼をこらして観察しないと視界に入っていない。そして忍耐強く時間をかけないと現象の進行にも気がつかない。

「失敗しそうにないことも失敗する」原因を作る強力な敵は色々の服装をまとっている。時には小さなチッピング

であり、咬頭頂のわずかな凹みであったり、歯頸部の楔状のえぐれであったりする。かすかなクラックラインのこともある。そのラインは咬合面からは観察できない隣接面に初発し、大きくなるとプラークの場を作り、カリエスに発展する。隣接する両側の歯にカリエスを作るとは限らない。カリオロジーの分野ではない可能性が高い。

色々な服装に身を包むが、犯人はオーバーロードである。そのロードは相手を選ばない。牙をむき出し、時間をかけて、遂には歯牙破折にも至る。無髄歯であれば壊滅的な歯根破折を生じてしまう。修復物の摩耗や剥離、破折を起こす原因となる。歯牙の支持組織を破壊し、歯の移動や動揺性を増大させる。どうやら歯科医の評価を失墜させようとする問題点のほとんどがこのあたりにあるのかも知れない。初めに書いたように、我々は患者さんに有益であろうと努めるし、誰でもそれぞれの時点では名医なのだが、ロード、つまり繰り返し反復する力の前には屈服せざるを得ないのかも知れない。

今回、内山先生はロードにより起こる現象を、極めて冷徹な眼によって観察し、その現象を時間をかけて記述した書籍を上梓された。例えばセメント

質の剥離、Cement detachment と称されるが、この現象に気付いて追求しているのに正直言って驚いている。又、かつては市民権を持たなかった破折、Abfraction についても言及され、多くのページを割いていることに感激してもいる。その他、内山先生が記述された沢山の現象に、多くの人々は例え気付いても原因の追求をためらった可能性がある。ロードは実際の臨床の鍵ともなる問題であり、恐らくそれはインプラントに巨大な刃をつきつけるにちがいない。

内山先生はこの本で現象の記述に努力された。多分、先生は次の段階であるその分類に踏みこもうとしているのではないだろうか。歯牙や支持組織に出現する問題点の記述だけでなく、オーバーロードと咬合の全体像との関係、最後臼歯の背負った宿命、審美素材との同調、インプラントの上部構造のあり方…などの緻密な構想が完成しているに違いない。この「力の本」を熟読した読者は優れた臨床家の熟成した観察眼に驚くだけではいけない。その眼が辿りつくであろう次の高みを共有する覚悟を持たねばならない。